

本県ゆかりの文学作家を顕彰し、高知の文学の魅力を伝えるとともに、県民の文学への関心を高める

要求水準－収集・保存

収集方針に基づき県関係の作家の資料を収集し、適切に保存する

評価項目

- (1) 作家や関係者との信頼関係を築き、特色のある資料の充実に努める
- (2) 資料の整理・分類、点検・劣化防止等の処置を適切に行う

状 況 説 明

所蔵資料は、平成29年度末時点で72,987点、前年度末から3,829点の増加となった。
 <28年度の主な寄贈資料>
 寺田寅彦書簡 9 点、宮尾登美子草稿 18 点、上林暁草稿 3 点、志水辰夫草稿・写真・著書等 35 点等

- 1) 体制の確保
 - ・資料班において契約職員 2 名が専属で担当し、着実に保存整理を進めている。
- 2) 展示保存の技術・意識の向上
 - ・26 年度から実施している有害虫駆除の予防策(IPM)の活動を継続し、全職員が交代制で毎朝開館 30 分前に点検を実施し、環境の改善措置を行った。
- 3) 資料の整理・管理
 - ・新規資料、未登録資料等の登録及び情報の補完等、更新作業を行った。
 新規登録 3,829 点 更新資料 11,447 点

評価	理 由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・作家や関係者と良好な関係を維持し、資料の寄贈・寄託につなげており、平時の地道な積み重ねが成果として表れている。 ・良好な保存・展示環境を作ることによりリスクを軽減するという活動に取り組んでおり、常に保存・展示環境に気を配る習慣を身につける努力が認められる。

要求水準－調査・研究

高知の文学や作家について研究を進め、その成果を公開する

評価項目

- (1) 職員の専門性の向上を図るとともに、高知の文学や作家に関する調査研究を進める
- (2) 研究活動の成果を、企画展や広報媒体などを活用し、広く公表する

状況説明

- 1) 所蔵資料の調査研究
 - ・所蔵資料を体系的に分類・整理し、顕彰作家や作品の調査研究を行っている。
 - ・全国文学館協議会において共同テーマ展示「3・11 文学館からのメッセージ 天災地変と文学」に関する報告と討議を行った。
 - ・幕末維新博の地域会場として、常設展を中心に歴史と文学をテーマとする展示のための調査研究を行い、巡回講座にて講義を行った。
- 2) 県内外の文学館施設の交流
全国文学館協議会、瀬戸内文学館連絡協議会、ミュージアムネットワーク等へ参加し、県内外の文学館施設の交流、情報交換、専門性の向上に寄与する活動を行っている。
- 3) 常設展における公開
中江兆民、田岡典夫、田宮虎彦、若尾瀾水を紹介し、高知の文学者と作品の魅力をわかりやすく伝えた。
- 4) 企画展
 - ・高知県ゆかりの作家を顕彰し紹介する企画展を3本行った。
- 5) 文学研究誌等への寄稿や講演
 - ・同人俳誌「勾玉」に「物理学者・寺田寅彦の連句」「高知の俳人・若尾瀾水」連載
 - ・物理系科学者の随筆や評論を集めた雑誌「窮理」に「窮理の種」連載
 - ・文学学校、シルバー大学、高知大学での講演を行った。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none">・所蔵資料の調査研究に継続して取り組み、成果報告として、顕彰作家のローテーション展示や寺田、宮尾の各展示室の年度テーマによる展示や、企画コーナーにおいて幕末維新博に関連させた作家紹介を行っている。・「寺田寅彦記念室」の子供向け解説の充実など、リピーターや幅広い年齢層へのアプローチのための工夫がされている。・シルバー学校や高知大学などで講演を実施するなど、より多くの県民へ文学の魅力を広めることができた。

要求水準－展示・公開

優れた文学作品に触れる機会を提供し、文学の愉しさを伝える

評価項目

- (1) 新鮮さと変化が感じられる常設展示や、時代の変化を踏まえ、様々な年代の知的好奇心に触れる企画展示を行い、5年間で10万人以上の観覧者を目指す
- (2) 次代を担う子どもたちに喜びと感動を与え、創造性豊かな心を育む企画展示を行う
- (3) ギャラリートークの実施など、来館者の理解が深まる取り組みを行う

状況説明

- 1) 常設展示室
ローテーション方式による展示の入れ替え、企画コーナーでは土佐独特の発展を遂げた朱子学の一派「南学」と谷家の人々の紹介に加え、土佐の近世文人たちの詩歌など貴重な資料を展示した。
- 2) 企画展示室
 - ・高知県立文学館開館20周年特別企画「文学館の文化祭」(観覧者数2,081人)
 - ・「東京写真月間「青春18きっぷ」ポスター紀行」(2,580人)
 - ・県民の文学への関心を高める企画「没後20年司馬遼太郎展 二十一世紀“未来への街角”で」(4,175人)、「上橋菜穂子と〈精霊の守り人〉展」(3,471人)、「酒と文学展～『土佐日記』から吉田類まで～」(1,905人)
 - ・夏休み親子向け企画「いいから いいから ～長谷川義史の世界展～」(5,871人)
- 3) 子どもの創造性豊かな心を育む取組
 - ・2014年に児童文学における最高の賞である国際アンデルセン賞作家賞を受賞した「精霊の守り人」展では、同シリーズ関連資料やテレビドラマ資料、アニメ化・マンガ化された作品などを、作家自身の解説とあわせて展示した。
 - ・「紙芝居普及活動」では、小学校を中心に放課後児童クラブ等での紙芝居による読み聞かせ活動を行った。(69回 3,013名参加)
- 4) 来館者の理解を深める取組
 - ・企画展開催中は、毎週土曜日に担当学芸員によるギャラリートークを実施した。(89回 1,402名参加)
 - ・展覧会では関連企画として、作家や研究者等の講演会、対談、DVD等映像での解説を実施した。
 - ・年間を通じて、団体等の来館に合わせ展示解説を行った。
 - ・藤並の森を舞台に“木漏れ日コンサート”を開催し文学作品の時代背景や雰囲気音楽とのコラボレーションにより身近に感じてもらう取り組みを行った。

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・高知県の文学作家の顕彰を中心に、様々な年齢層を対象にした質の高い展覧会を実施しており、企画展観覧者数は20,083人と、年間目標値である2万人を達成した。 ・子どもに関心の高い企画展等を実施することで、子どもたちが文学に興味を持ち、文学館を訪れるきっかけを作ることができている。 ・ギャラリートークや解説、関連企画等を積極的に実施し、見るだけでは伝わらない担当者の思いや作品の背景を伝えることにより、来館者の理解が深まる取り組みを行っている。

要求水準－教育・普及

様々な年代を対象とした教育・普及活動を行う

評価項目

- (1) 多彩な年代に応じた教育プログラムの実施により、来館者の文学への関心を高める
- (2) 文学活動に取り組む団体や個人の活動を支援し、文学活動の裾野を広げる

状況説明

- ・県民に親しまれる文学館を目指し、様々なテーマで教育活動を展開した。(参加者:11,843人)
 - ① 文学専門講座(年6回) 開館20周年によせて、20年間の思い出や文学散歩、作家との思い出などを紹介
 - ② 文学カレッジ(年6回) 常設展で紹介している作家、司馬遼太郎、黒岩涙香、戦時下の文学、岡本弥太の他、作家吉川日出男氏の講演など
 - ③ 朗読の会(7回 340人)
 - ④ 児童生徒文学作品朗読コンクール(4回 916人 夏:県内3カ所、秋:県審査(特別審査員に絵本作家・西村繁男氏を招聘 記念講演「人と出会って絵本が生まれる」開催)
 - ⑤ 記念講演会(企画展関連)(4回 472人)
 - ⑥ ギャラリートーク(89回 1,402人)
 - ⑦ 語りと紙芝居の会(12回 247人)
 - ⑧ 紙芝居普及活動(69回 3,013人)
 - ⑨ 土佐近世文学研究会(45回 483人)
 - ⑩ 出張朗読会(3回 129人)
 - ⑪ 職員による講演会等(32回 1,629人)
 - ⑫ その他企画展関連イベント(50回 2,824人)
- ・博物館実習、小中高や専門学校、大学等の授業と関連した団体観賞を例年受け入れている。
- ・「朗読の会」や「語りと紙芝居の会」では発表の場を設け、受講者のスキルを高める取り組みを行っている。また、「近世土佐文学研究会」では、近世文学資料を用いた古文書解読を行う活動を支援している。

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none">・文学カレッジや専門講座、児童生徒文学作品朗読コンクールの開催をはじめ、職員の講師派遣や語りと紙芝居の会等のアウトリーチ活動を積極的に展開するなど、多彩な教育プログラムが実施されている。・朗読の会といった朗読者養成講習の実施や、近世土佐文学研究会への館所蔵資料の提供などにより、文学活動に取り組む団体や個人の活動支援が行われたと認められる。

評価項目

高知の文学に関する戦略的な情報発信により、県内外に館の魅力を広める

状 況 説 明

1) 広報媒体の活用

- ・新聞・テレビ・ラジオ、各種情報誌などへ積極的な情報提供を行い、タイムリーな情報発信を行った。
- ・ポスター・チラシ等の配布にあたり、高知市内、県内道の駅等に直接出向いて広報密度を高めた。
- ・大学の研究誌や新聞の学芸欄等への連載など紙面を通じて情報発信を行った。
- ・最新情報を随時ホームページ等で発信した。情報項目などの内容の大幅充実と最新情報掲載の円滑化を図った。

2) 講演会への職員派遣

- ・市民生涯大学・シルバー大学・教育関係者研修会、高知大学等において、講師を務め、土佐文学全般や展覧会について伝えた。

3) 高知大学地域協働学部との連携

- ・インターンシップ生の受け入れなど、大学との連携を通じて文学館のPRを行った。

4) 県外へのPR

- ・企画展による連携で県外の文化施設を通じての情報発信を行った。

評価	理 由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・各種広報媒体を利用して企画展等の情報を発信し、ホームページの活用なども含め、積極的に戦略的な広報活動が行われている。 ・講演会などを通じて、高知の文学について、広く伝える取り組みが行われていると認められる。

評価項目

県内外の他の博物館等と連携した事業の充実により、県民サービスの向上を図る

状況説明

1) 文学館・博物館との連携

- ・各企画展において、関係する県外の文化施設と資料の貸し借りや情報交換を行い、県所有資料だけでなく、県外文化施設の所有資料についても、展示することで、来館者に提供を行った。
- ・「全国文学館協議会」や「瀬戸内文学館連絡協議会」へ加入し、展覧会等での協力体制の円滑化や強化に努めた。
- ・こうちミュージアムネットワークに加入し、県内の文化施設との連携や情報共有に努めた。
- ・お城下に所在する文化施設等によるお城下ネットワークと連携し、広報物等の作成を行った。

2) その他の連携

- ・子ども向け企画等を扱っている民間会社などとの情報交換を密にし、時代のニーズや各社の企画などの情報の入手に努めた。
- ・司馬遼太郎展などのように、司馬遼太郎記念館と連携の中、男性にも足を運んでいただける取り組みも行っている。
- ・酒と文学展では、県立歴史民俗資料館より皿鉢や徳利を借用して展示し、広い視野から酒と文学の関連性をとらえた。

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・全国文学館協議会との共催による企画の展示のように、全国の文学館組織や文化施設等との連携を図り、より魅力ある企画展の開催につなげている。 ・「お城下ネットワーク」での活動を行うなど、分野を超えた連携を積極的に行っている。 ・時代のニーズの把握につとめ、夏休み企画展等の企画立案に活かしている。

要求水準－施設管理

施設及び設備の適切な保守管理をととして、故障や事故のない運営を行う

評価項目

(1)適切な管理運営の確保	社会的責任	・法令等の遵守 ・個人情報、情報公開の状況
	建物や設備の管理	・点検、修繕の実績 ・業務委託の状況
	危機管理	・風水害、火災、地震、盗難等危機管理対策 ・マニュアルの作成 ・職員研修

状況説明

- 1) 社会的責任
公益財団法人高知県文化財団の各種規定により、法令を順守した管理運営を行っている。
- 2) 建物や設備の管理
主な修繕は以下のとおり
- ・館内監視モニターを更新(県工事)
 - ・授乳室新設(特定費用準備資金)
 - ・中2階階段室柵設置(特定費用準備資金)
 - ・企画展示室 LED 交換(特定費用準備資金)
 - ・茶室「慶雲庵」生け垣改修(特定費用準備資金)
 - ・常設展示室(寺田室)雨漏り修繕
 - ・消防設備修理・交換
 - ・倉庫換気設備設置(新設)
 - ・藤並の森及び茶室「慶雲庵」の植栽管理
 - ・収蔵庫燻蒸
- 3) 危機管理
- ・風水害、地震、火災等の危機管理については、防災管理者を選定し、対応マニュアルに沿って管理している。
 - ・役割分担のマニュアルを配布し、自分の対応部署の把握に努め、防火訓練を実施している。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・建物・設備の管理については、事前に修理を行い、観覧者の安全性や快適性を保つ等、適切な管理運営が遂行されたと認められる。 ・開館 20 周年に際し、授乳室を設置する等、利用者サービスの向上を計画的に実施したことが評価できる。

評価項目	
(2) 利用者サービスの維持向上	・利用者の意見の反映 自己点検、評価の状況 ・事故、クレームへの対応 ・職員の専門性の向上 ・研修の実施状況 ・その他サービス向上の取り組み

状況説明
<p>1) 利用者の意見の反映 アンケート調査や直接職員が受けた意見などを全職員で共有し、様々な年齢層に対応する企画開催をはじめ、サービス向上のための基礎資料として活用し、良好な施設づくりに取り組んだ。</p> <p>2) 自己点検 月2回の定例会において、職員が事業運営や職員活動に対する様々な意見を出し合い、サービス向上のための改善に取り組んだ。</p> <p>3) 評価の状況 来館者アンケート「顧客満足度」によると、「大変良い」「良い」の評価は概ね9割を超えている。</p> <p>4) 職員の専門性の向上と研修の実施状況 ・全国文学館協議会や瀬戸内文学館連絡協議会への研修参加や、日本近代文学館主催の専門研修に参加し、専門分野の知識向上スキルアップに努め、実践につないだ。 ・県外の展覧会視察や民間の展示方法等の研究により、発想力を研鑽し、顧客サービスの改善に努めた。</p>

評価	理由
A	・利用者のサービスの維持向上に努めており、来館者アンケートで高い評価を得ている。 ・職員の専門性の向上により、展示環境改善へ繋がっている。

評価項目		
(3) 利用実績	利用実績の状況	・利用状況の分析

状況説明
<p>1) 利用実績の状況 開館日数 353 日 うち企画展開催日数 296 日 (H28 実績 343 日 うち企画展開催日数 296 日) 総利用者数 43,998 人 (H28 実績 52,664 人 対前年度比 83.5%) うち常設観覧者数 1,972 人 (H28 実績 1,791 人 対前年度比 110.1%) うち企画展観覧者数 20,083 人 (H28 実績 25,294 人 対前年度比 79.4%) うち教育普及事業参加者数 11,843 人 (H28 実績 14,866 人 対前年度比 79.7%) うちホール・茶室利用者数 10,100 人 (H28 実績 10,713 人 対前年度比 94.2%) ※利用件数 ホール 225 件、茶室 84 件 (H28 実績 ホール 259 件、茶室 89 件)</p> <p>2) 利用状況の分析 ・常設観覧者数については、毎年入場者が増加しており、展示内容の更新の効果が出ているものとみられる。 ・教育普及事業参加数については、実施回数の減少(H29:327回、H28:353回)によるものとみられる。</p>

評価	理由
B	・総利用者数は減少しているが、企画展観覧者数は、目標観覧者数の2万人を上回っている。

評価項目		
(4) 収支の状況	経営努力	・収入増加の取り組み ・経費削減の取り組み

状況説明	
1) 収入増加の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・優良な企画展の開催といつ来ても新鮮な常設展を合言葉に、観覧者の来館推進を図った。 ・ミュージアムショップにおいても企画展と連動したグッズの販売を行い、販売促進を行った。
2) 経費削減の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・経費の中で一番大きなウエイトを占める電気料金の削減について、不要な部分のこまめな消灯、空調機器の一斉稼働防止、スポットライトのLED化等により、消費電力の削減を図った。 ・消耗品の在庫見直しによる無駄な購入の防止、コピー機・印刷機の有効活用による使用料削減等を行った。 ・キャプション、展示物を職員が自作することで、委託料や印刷費の削減を行った。

評価	理由
A	ミュージアムショップのオリジナル商品販売や、展示物等の職員の自作など、工夫を凝らした取組の努力が認められる。

総合評価

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・常設展示の充実や魅力ある企画展の開催、データ分析に基づいた戦略的情報発信など、日ごろからの地道な取組が評価できる。 ・企画展観覧者数の年間目標である2万人を達成している。 ・アンケート調査についても、展示内容、接客、環境・快適性について高評価を得られており、優れた管理運営、事業の遂行がされたと認められる。

評価基準

- 「A」 要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされた。
- 「B」 概ね要求水準どおりであり、適正な管理運営・事業の遂行がされた。
- 「C」 要求水準に達しない面があり、改善のための工夫や努力が必要。
- 「D」 管理運営・事業の遂行が適正に行われたとはいえ、大いに改善を要する。